

伊波普猷 いば 郷土史家。明治九年二月二十日沖繩縣那覇生れ、昭和二十一年八月十二日歿（八六―一九四七）。筆名いは生、くれがし、それがし、はまなや、伊波物外、伊波生、圖書館の伊波、外來者勝利、鴛君子、物外、物外子、物外樓主人、蕉蔭庵、蕉蔭生等。東京帝國大學文科大學言語學科卒。沖繩縣立圖書館初代館長を務めたのうち、大正十四年上京、在野の儘研究に専念。自琉回祖論を略し、へ沖繩學の父と稱せられた。『伊波普猷全集』全十一卷（昭和四十九年―五十二年平凡社刊）がある。

著書『南島の歌謡の流きこ』（昭和二年四月、二十日學藝講演通信社）『學藝通信社パンフレット』、『日本昔話集・下』（合著、昭和四年四月、二十日アルス『日本児童文庫』）、『日本文学講座・第十五卷―特殊研究』（合著、昭和七年二月、二十日新潮社）、『日本文化の南漸』（さな）神の爲續篇）』（昭和十四年十月、二十日樂浪書院）、『琉球の五偉人』（真境名安鎮共著、昭和四十年七月、二十日沖繩・沖繩産経新聞社出版事業部）、『沖繩史の五人』（『琉球の五偉人』現代語訳）』（同、昭和四十九年五月、二十日琉球新報）等。